

助成事業実施報告書

団体名「市民活動のひろば」発行委員会

代表者・役職名 氏名 江頭晃子



▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

多摩地域唯一の村である檜原村・湯久保地域の豊かな暮らしと文化を紹介する冊子作成

2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

東京都が市民活動情報誌を2002年まで発行していたが、廃刊になったため、市民間の情報のネットワークを継続させるため、市民有志で発行を開始。毎号市民活動に関する特集を組み、3~6団体による活動紹介と月毎の多様な市民団体による催し情報を100件以上掲載している。B5判30ページ前後、年10回発行。毎号約600部を定期読者と多摩地域の公共施設で配布している。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

東京・多摩地域30市町村の中の唯一の村である檜原村の人口は現在2300人で過疎化がすすんでいる。しかし、檜原村の中でも限界集落に近い湯久保地域に、今、若い人が少しずつ移り住んでいる。不便な生活と反比例するように暮らしの中にある人びとの知恵と地域の豊かな文化、湯久保の魅力を伝えたい。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

「市民活動のひろば」94~109号に掲載した「檜原村 湯久保の暮らし Part1」と、136~146号に掲載した「Part2」を再編集して、項目ごとに分けて、冊子化した。項目は、「文化」「古民家の再生」「湯久保から見てくる」「湯久保で育って」「湯久保で暮らし始める」に分け、老若男女からの湯久保の暮らしの魅力を伝えた。大変好評で、2刷を数えることができた。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

・結果:冊子が完成し、多くの人に湯久保の暮らしの実態を伝えることができた。
 ・成果:湯久保を訪れる人が増えた。
 ・効果:暮らしのあり方を考えるきっかけとなっていくだろう。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

冊子を媒介に、緑や文化・知恵のある暮らしへの注目を広げる一つのきっかけとなったが、今後さらに、檜原村・湯久保をはじめ、東京・多摩地域の暮らしや市民の活動を伝えるとともに、継続的に「暮らし」や「活動」を記録し、保存していきたい。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり ・ 特になし